

後援 日本イコモス国内委員会、DOCOMOMO Japan

京都工芸繊維大学大学院建築都市保存再生学コース  
保存再生学シンポジウム2017 第2回

Theme

Conservation and Practical Use of Modern Timber Architecture  
木造近代建築の保存活用における理念とデザイン



ユネスコ世界遺産・富岡製糸場



重要文化財・親愛幼稚園

Schedule

Sunday 5 November, 2017  
2017年11月5日[日] 13:30 -

Venue

60th Anniversary Hall, Kyoto Institute of Technology  
京都工芸繊維大学 60周年記念館 2階 大セミナー室

Summary

京都工芸繊維大学大学院・建築都市保存再生学コース「保存再生学シンポジウム2017」の年間テーマは「木造近代建築」である。ここで言う「木造近代建築」には伝統工法による神社仏閣や民家、近代和風建築は含まない。20世紀に造られた公共的な色彩の強い比較的規模の大きなものを対象とし、海外の事例も視野に入れた議論を期待している。

木造近代建築の価値・位置づけはどこまで明確になっているのだろうか。都市や建築の“不燃化”を目指した近現代社会において、多くの木造建築は取り壊されてきたし、伝統建築と異なる、近代建築における「木の文化」に対する考え方も

整理されてはいない。国際的な木造建築の保存理念としては、ICOMOS(国際記念物遺跡会議)の「木の委員会」において纏められた「歴史的木造建築の保存のための原則」(1999年)があり、国や地域を超えて共有すべき木造建築の保存理念が表明されている。しかしこの「原則」が近代建築の保存の場でどのように扱われ適用されるべきなのか。また近代の木造建築における保存修復の考え方において、煉瓦造や鉄筋コンクリート造建築における理念・手法と何が異なり何が共通なのかを検証することも必要であろう。

木造近代建築における、守るべき価値と使い続けることの意味を改めて考えてみたい。

Program

- 13:30 趣旨説明 田原幸夫 [京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 特任教授]
- 13:50 講演1. 村上裕道「木造近代建築の保存と構造補強—イコモス・プリンシプルへの疑問—」
- 14:40 講演2. 木村勉「木造近代建築の修復における保存・活用への取り組み」
- 15:30 休憩
- 15:40 講演3. 富永善啓「木造近代建築の耐震補強とデザイン」
- 16:30 座談会 村上裕道+木村勉+富永善啓+田原幸夫+笠原一人 [京都工芸繊維大学助教]
- 18:00 講師・参加者による懇親会 @プラザKIT(会費制)  
定員:90名、入場:無料(申込不要、当日先着順)